百人一首

49番から52番

年　月　日　曜日

名前（　　）

百人一首を書きましょう。

風をいたみ岩打つ波のおのれのみ
くだけてものを思ふころかな

源重之

【現代語訳】
風が烈(はげ)しいので、岩に打ち寄せる波が自分だけ砕けて散るように、つれないあの人の為に私の心も砕ける程に思い悩むこの頃である。

御垣守衛士のたく火の夜は燃え
昼は消えつつものをこそ思へ

大中臣能宣朝臣

【現代語訳】
宮中(きゅうちゅう)の御門(みかど)を守る兵士の焚く火が夜は燃え、昼は消えているように、私も夜は恋しさに燃え、昼は身も消え入るばかりに恋の物思いに悩んでいるのです。

君がため惜しからざりし命さへ
長くもがなと思ひけるかな

藤原義孝

【現代語訳】
貴方に逢う為ならば惜しくないと思っていたこの命までもが、お逢いできた今となっては長くあって欲しいと思うようになりました。

かくとだにえやは伊吹のさしも草
さしも知らじな燃ゆる思ひを

藤原実方朝臣

【現代語訳】
こんなにも貴方を思っていることを、口に出して言うことができるでしょうか。ましてや伊吹山(いぶきやま)のさしも草のように燃える様な思いを、貴方はご存じないでしょう。

介護現場・認知症予防応援サイト
脳トレの効果
OK プリント使用・ダウンロード無料、施設での利用可
NG 他サイトでの再配布・複製・譲渡など不可
https://orange665.com/